

審査における質疑内容や議員からの意見は次の通りです。

㊦ コミュニティバス推進費、

運転手やデマンドアンケート調査の回答をどのように活用しているか。

㊦ 極端に利用者が少ない停留所や、フリー乗降区間の設置希望に関する意見を基に、現地確認や自治会への聞き取り調査、説明を行い、実際の交通状況を確認した上で、対応が可能なものに関しては、地域公共交通会議に諮り、承認を受け運行改定につなげている。改定の具体例は、菊川西循環コースで高齢化が進んでいる長池団地内への乗り入れ需要が増えたことから長池団地バス停を新設した。また、三沢・河東コースの前岡からみなみやま会館の区間と沢水加コースの吉沢地内で、フリー乗降区間を設置し利用者の自宅付近まで送迎することによって、調整に時間を要する場合もあるが、実際の利用

者の声を聞き、可能な限り運行改善につなげて行きたいと考えている。

利用者の固定化でデマンド運行の利用者が減っているというところであるが、予約が面倒ということが一番のネックであると思う。予約のハードルを下げ、新規客の獲得の工夫をすれば、利便性がよくなる事業であると感じた。



菊川市コミュニティバス

㊦ 河川維持総務管理費、河川や水路において流下阻害の原因となる恐れがある雑木などの伐採の実施とあるが、どの場所でも実施されたのか。河川愛護団体への補助金の支払いは十分な予算規模であったのか。

㊦ 市内普通河川の島ノ川、堂ノ谷川、下前田川の雑木と除草を2,660㎡、ひかり団地西側水路や篠原医院隣接水路なども実施した。河川愛護団体への補助金の予算は、予算内で昨年度予定していた愛護事業を実施することができたと考えている。

河川について、流下阻害ではないと草刈りなどの対応ができないという事だが、長く放置され自治会でも手が出せないようなところは、特別な予算を作り対応していかないと、もっとひどくなっていくのではないか。

㊦ 貯水槽整備事業費、軟弱地盤地域が広い菊川市において、巨大地震時に消火栓の活用が危

惧されるが、どのように捉えているか。

㊦ 巨大地震等が発生した場合に、消火栓は水道管を使用しており、使用できなくなることも想定している。このため、火災発生時には唯一の消防水利としては防水水槽が重要な施設となり、耐震性の防水水槽の整備を進めている。また、進める中で、現在耐震性ではないオープン型の防水水槽が多く、同じ場所に設置できればいいが、近くの違う場所に耐震化ということで整備したいということも考えている。

巨大地震が来た場合に、この地域でどのような被害があるかと考えると、家屋の倒壊や火災への対策が一番重要だと思う。そのときの消火で水利の関係があるが、防水水槽、消火栓、大井川用水、自然水利、ため池の水利など、そういったところをしっかりと把握しておくことが非常に大切だと思った。